



飼育レポート1

目の前でヤマアラシが見られる迫力ある展示です

飼育展示担当 佐々木 美千代

当園では、アフリカタテガミヤマアラシを飼育しています。場所は正面ゲートから近く、フラミンゴのななめ向かいです。

たいていのお客様には「ハリネズミだ」「ハリモグラだ」あるいは「ハリセンボンだ」「山アザラシだ」と言われてしまいます。しまいには「アフリカタテガミヤマアラシ」と、どこで切ったかわからない長すぎる名前ということもあり、同じネズミの仲間のカピバラに認知度でも完全に負けています。

ですが、トゲトゲの体でちょこまかと歩いて壁をカリカリ前足でかいたり、大きい骨をポリポリかじったりと忙しそう不思議でおもしろみのある動物です。

不思議だらけのヤマアラシの展示場は、元タイノシシ用獣舎で、人止め柵の格子、フェンスの格子の二重構造でとても見づらく、写真を撮っても柵が写って邪魔です。これではせっかくのヤマアラシが「もったいない」ということで、常識に捕われずに改造しました。

今まで邪魔だった二重の格子を取っ払い、大きなガラスのボックスをはめ込みました。お客様とヤマアラシの間にはガラス1枚しかありません。前の展示場に比べ、ヤマアラシを近くで見ることができ、トゲ1本1本の質感や彼らの息づかいまで聞こえてきそうです。高さも低めなので小さなお子様とヤマアラシの目が合う高さで迫力があります。トゲを広げるとほとんどのお客様がビックリしています。ヤマアラシと2ショットを撮ったり、じっくり観察をしたりと、お客様の滞在時間が前より延びたことは私自身も驚きました。新しくなったヤマアラシ舎にぜひ遊びに来てください。



リニューアルした展示場の全景



格子で見づらい以前の展示場



より近くでご覧いただけます



飼育レポート2

現在のまんまタイムの様子。距離感がぐっと増えています

飼育展示担当 堀籠 麻子

レッサーパンダのワクワクお立ち台

2010年9月、レッサーパンダの展示場がリニューアルしました。

もちろん手作りです。ところで皆さんのレッサーパンダのイメージって「ずーっと寝てて動かない」だと思います。確かに寝ていることが多く、見ている面白味がないかもしれません。それでは担当者としては悲しい…ということ！テーマを「(個人的な願望で)限界ギリギリの距離・躍動感！」とし、リニューアルを決行。ギリギリと言ってもレッサーパンダはジャンプが得意。縦飛び・横飛びなんでもござれ…脱走されるのは困る…でも観察中にちょっと高め場所にななめに飛ぶことと、コンクリート部分に飛び降りるのを嫌がることに気づきました。

その苦手ポイントを活かしてできたのが「ワクワクお立ち台inレッサーパンダ舎」です。是非！手が届きそうな限界ギリギリの距離を実感しにレッサーパンダのまんまタイムに遊びに来てください。



リニューアル後の全景



すっかり慣れてちゃんと「立って」ます 以前のまんまタイムの様子

動物病院から

ケツメリクガメの

かわいい!

赤ちゃん誕生!

獣医師 安永 千秋



孵化した瞬間

見に来てね!

手の平にのるかわいいサイズの赤ちゃん(生後3日目)

大森山動物園では、2002年からケツメリクガメを飼育していますが、そのうちオスのカメ吉とメスのカメ子との間で、春頃から何度か交尾が見られるようになりました。大森山動物園ではこれまで繁殖したことがなかったので、淡い期待を抱きながら、春から夏にかけて栄養をたくさんつけさせるために、野草や桑の葉などをできるだけ食べさせました。その結果、7月下旬頃になると、カメ子に産卵の徴候が見え始め、7月29日にととう産卵が確認されました。卵はそのままでは孵化しない環境なので、回収して準備した孵卵器に入れて温めました。その後も、カメ子はおおよそ2ヶ月毎に産卵を繰り返す、その都度、卵は回収して温め孵化を待ちました。そんな中12月5日に、ととう1つの卵(産卵日9月2日)が割れ始め、小さなカメの顔が見え、その後無事に殻から出てきました。その後も卵は続々と孵化して2011年2月10日現在は11匹の赤ちゃんが動物病院の保育器の中で順調に育っています。

大人のケツメリクガメは20kgを超え、大きいものなら70kgにまで及びますが、孵化した子ガメは20gほどしかありません。成長は早く、数年で大きくなりますので、このかわいらしい姿は今しか見られません。小さな子ガメとその成長段階を見ていただけるように、今後も繁殖に取り組んでいきたいと思っています。みなさん見に来てくださいね!



飼育日誌から

(平成22年9月~平成23年1月)

飼育職員が日々記録している飼育日誌の一部を抜粋してご紹介します。

| | |
|--|---|
| 9/1 シロフクロウ ♂ 朝から開口呼吸をしていた為地面に水をまく。夕方には落ち着く。 | 11/16 レッサーパンダ 3頭共、発情期特有の鳴き声を出していたが、交尾行動は見られなかった。 |
| 9/7 ツキノワグマ ♂・♀を同居展示。特にトラブル等もなかった。♀ 納舎時、♂のすぐ後ろについて寝室に入るのを待っていた。 | 11/19 リス ケンカは見られなかった。親♀の部屋にクルミの殻が多く落ちていた。良く食べているようだ。 |
| 9/7 キョン ♂ 2部屋の2頭が夕方外展示場で角を突き合わせ闘争 | 11/22 タンチョウ チルチル♀ 午前中、羽ばたく行動が見られる。 |
| 9/8 ミーアキャット 夕方、上空にいる猛禽類に反応し鳴き声を小さく上げながら、上空を見上げていた。仔に特にその行動が目立ち、親達にはあまり見られない。夕方、採食良好。 | 11/24 コエヨシドリ ♂ 朝座ったまま動きがなく病院で治療する。体温が低下していたため熱マットを敷き毛布で温めたところ、夕方だいふ回復する。 |
| 9/8 第140回関東東北ブロック動物園技術者研究会を大森山で開催 | 12/1 ポアコンストリクター 朝確認時、脱皮していた。回収後、展示場に散水する。 |
| 9/9 チンパンジー ユミノスケ♀ 朝の挨拶時、手を出してくる。朝の牛乳は全部飲み干す。 | 12/5 フライングケージの鳥を捕獲し、越冬舎へ入れる。 |
| 9/10 リス 煮干し、小松菜、チーズをエサに追加。ケンカしながらもよく食べる。 | 12/8 ワシミミズク・フクロウ舎 午後より冬囲いを実施する。 |
| 9/21 アフリカゾウ 夕方のトレーニング、各項目に反応良好。「スティ」の時、1回だけ「ノー」を使う。「スティ」をだいたい理解してきていると思われる。 | 12/12 カピバラ レン♂とマツ♀・サツキ♀をフェンス越しにお見合いさせる。3頭とも落ち着いているようだった。 |
| 10/4 ペンギン 午前中、ペンギン舎の屋根にアオサギがいた。アオサギがいる間は、全羽プールに入ったままだった。アオサギが飛び立った後は普段どおりだった。 | 12/18 オオカミ ミッドナイト♂ 食欲良好。展示場に出すと雪の中でも活発に動き回る。 |
| 10/9 アシカ マヤ♀ ボールバランスの練習、順調に進んでいる。また少しボールを乗せていられる時間が多くなった。 | 12/21 カピバラ 11:00よりマツ♀、サツキ♀、レン♂を30分同居させる。特に闘争等のトラブルも無く3頭とも落ち着いていた。レンは特にメス達に興味がないようで、しばらくすると乾草の上に座り始めた。明日はもう少し同居時間を延ばす予定。 |
| 10/12 モモイロペリカン 朝、池に給餌したが、すぐに全羽食へ来る。夕方は手から給餌。 | 1/5 ラクダ 楽楽♂ 放飼スムーズ。口の周りに泡を出していた。収容時は発情のためなかなか入ってこなかった。少々時間かかる。 |
| 10/16 リスザル 最近全体的に毛づやが悪くなってきている気がする。夕方、ゆで卵給餌。 | 1/8 チンパンジー舎 モート氷割り撤去作業、サル山雪寄せ。 |
| 10/24 リス ♂全頭確認。採食良く、クルミも貯め込んでいる様子。 | 1/12 乾草搬入6t |
| 11/12 キリン 暴風雨のため11時収容。体が冷えたのか便が少し崩れていた。採食は問題なし。 | 1/14 ビーバー 室内に氷の塊が数個運ばれていた。 |
| | 1/15 アフリカタテガミヤマアラシ すぶた♀ 14:00~15:00まで展示場へ出す。展示場のライトが暖かいのがわかるのか、出窓にいることが多かった。 |

ヤマアラシ展示場ビフォー・アフター「びっくり出窓」完成